

body(体)mind(心)spirit(魂)全人的看護をめざして

第22回JHNA研究会(東京)ご報告

## ダイアログ・イン・ザ・ナーシング 五感で対話すること

平成29年9月3日(日)、「ダイアログ・イン・ザ・ナーシング 五感で対話すること」をメインテーマとする第22回日本ホリスティックナーシング研究会(JHNA)・第8回総会が、日本赤十字看護大学にて開催されました。約40名の参加者が集い、午前中は、第7回ベーシックセミナーの鈴木恵氏(横浜創英大学)に「Core Curriculum for Holistic Nursing 2nd Ed 第10章ナースコーチング」について、秋山正子氏((株)ケアーズ代表取締役所長・NPO マギーズ東京センター長)に「どんな時でも命は輝く～在宅ケアから相談事業まで～」について、ご講演いただきました。

午後は、栗原幸江氏(がん・感染症センター都立駒込病院・NPO マギーズ東京 心理療法士)に「対話への準備を調える～ナラティブ・メディスン入門～」についてご講演いただき、参加者同士で「物語ること」「聴くこと」を体験し、分かち合うことで人と人との繋がりが生まれることを共有することができました。

また第8回総会では、平成30年度9月から開始予定のホリスティック看護認定看護師(研究会認定)認定コースの概要や、事務局移転に伴う会則・定款の改正等について審議され、拍手でもって承認されました。



### 参加者からのご報告

#### 「どんな時でも命は輝く～在宅ケアから相談支援まで～

#### NPO マギーズ東京 秋山センター長の講話を聴いて」

山梨県立大学基礎看護学領域 井口久美子氏

私は、このホリスティックナーシング研究会の際に初めてマギーズを知り、心を揺り動かされ、10月28日のオープンマギーズの日に見学に行ってしまうほどの出会いとなりました。それほどに、この時の出会いは私に感動を与えてくださいました。

私は、自分が受診したときや仕事で病院と関わる機会に、技術の進化はしているものの「看護師の独自の機能は、病人であれ健康人であれ各人が、健康あるいは健康の回復に資するような行動をするのを援助することである」や、「看護とは生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」という看護の基本をなかなか実践できない状況にあるのではないかと感じておりました。入院している方々は、いつも看護師に気を使い「忙しいのに、ありがとう。」と言っています。在院日数の短縮化が叫

ばれ、治療が中心となっている病院では、なかなかゆっくり話しをする時間を作ることが難しくなっている現在、いつでも予約無しに専門の医療従事者と話をすることができる場合は、病気を患っている人、その方を支えている人の誰しものが必要としている場なのではないかと感じました。

また、ケアの実際として紹介していただきました方々の話では、生き生きと最期の時まで自分らしく生き抜いていることが目に見えるようでした。よい便が出て「内臓がしっかり働いている。まだまだ力があるってことです。」と伝える視点や、褥瘡に対しても専門化チームに来てもらい皮膚被覆材を貼るのではなく「あの程度の赤さなら、少しの工夫で赤みは消え循環もよくなるのに…」という視点は、これこそが看護と感じた話でした。秋山センター長が話してくださいました「一人ひとりの身体の中の力を信じる」ということは、まさにホリスティックに相手を見て、その方が持っている力を最大限に使えるように看護することではないかと考えました。病院の現状を見て「看護とは何なのか」と首を傾げていた時に、「やはり、本当の看護はこれなのだ」と、再確認できる話でした。本当にありがとうございました。



秋山正子氏

## 参加者からのご報告

## ワークショップ（対話への準備に備える）に参加して

熱海ゆずクリニック 陸田宏美氏



栗原 幸江氏

先日、ダイアログ・イン・ザ・ナーシングのワークショップに参加させて頂いた。私は在宅診療を行うクリニックで看護師として働いており、いろんな意味で面白さを感じて日々過ごしている。栗原先生のワークショップの中で印象的だった言葉は、私たちは各々、たくさんの物語を生きている、ということだ。本当にその通りだなあ、としみじみと感じた。同じ人間でも、これまで生きてきた環境、経験、それによって学んできたこと、感じてきたこと、信念としてきたこと、など本当に一人ひとり様々である。生きていけばいろんな出来事があり、その中で大きなショックな出来事はその人の人生を試しているように感じられるかもしれない。その渦中になると、苦痛であり、悲しみや恐れ、不安感に苛まれ、出口が見えず、ここからは出られないとさえ思う。でも、それこそが大きなチャンスなのかもしれない。その大きなショックな出来事の最中、きっと自分との対話を皆がしているだろう。「どうしてこうなったのか」「なぜ私なのか」など、それまでの過去を悔やむこともあるかもしれない。その対話に第三者であるサポーターがいてくれたらどれだけ心強いのか、と思う。

患者さんは私たち医療者に自分の思いを吐露してくれる時がある。そうして語ってくれることは、その患者さんの人生であり、心であり、思いが詰まっている。私たちは何ができるでもないが、その言葉を、空間を、思いを、聴き、共有し、大切にすることで、いつかその方が自分の中にある答えや出口を見つけたり気づいたりすることのお手伝いをしているのだと思う。そしてまた聴き手にとっても物語が増えていくのだと思う。

大きな出来事に直面している人が、自分を大切に扱ってもらえた、という体験を通して、今度は自分自身を大切に扱っていけるように、サポーターとしてお手伝いできたらと改めて感じる事ができた。そして、どんな出来事に直面しても、どんな自分も良しと受け入れて、そこからまた新しい地図を描き直す強さを誰もが持っていると思う。とても貴重な時間をありがとうございました。



## 参加者からのご報告

## ベーシックセミナー（第7回）に参加して

佛教大学 保健医療技術学部看護学科 岡田 朱民氏

今回は、第7回目のベーシックセミナーで、横浜創英大学看護学部の鈴木恵先生により米国のホリスティック・ナーシング協会認定テキスト「Core Curriculum for HOLISTIC NURSING」の第10章『Nurse Coaching』について、翻訳とプレゼンテーションが行われました。Coachingの語源は、「大切な人を、その人が望むところまで送り届ける」という意味があり、クライアントの自発的行動を促し、目標達成を目的とした双方向のコミュニケーションであるということをお話しされました。続いて、Professional nurse coachの定義や業務範囲、そしてアメリカにおける認定資格について、アメリカの現状をタイムリーに報告していただきながら、系統的にお話をしてくださいました。



鈴木 恵氏

近年日本においてもCoachingの重要性や必要性について認識され、教育や医療現場において実践されてきていますが、認定資格をもって実践しているアメリカの現状や、資格取得や更新のために費用がかかる上に、継続的学習が必要であることなどを聞き、大変驚きました。しかし、クライアントにとっては資格をもって対応してもらうことは安心であり、信頼につながるといえ、また看護師の役割の幅も広がり、より専門的アプローチが可能となると考えることができ、とても意義のある充実したセミナーでした。

第23回日本ホリスティックナーシング研究会（JHNA）

**第8回ベーシックセミナー**（認定制度検討委員会主催）

開催予定

日時：2018年1月20日（土）13:00～17:00（開場8:45）

場所：日本赤十字看護大学211教室（東京都渋谷区広尾4-1-3）

内容：[講演] 米国のホリスティックナーシング（安井豊子氏）

[ベーシックセミナー] AHNA, Core Curriculum for Holistic Nursing 2013の翻訳によるプレゼンテーションと討議

第29章文化の多様性とケア（田中久美子氏）

第32章エネルギーヒーリング（宗定水奈子氏）

【参加費】 会員 1,000円、非会員 2,000円

【問い合わせ先】 日本ホリスティックナーシング研究会事務局

TEL：03-3409-0722 e-mail：info@jhna.jp

## 入会のご案内



【会員】本研究会に賛同する医療専門職（看護師、医師、他）、補完・代替医療専門家、及びその学生、企業・施設・団体など

【入会手続き】URL：<http://www.jhna.jp>より入会申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上事務局に郵送もしくはE-mailで申し込み下さい。

【入会費】3,000円

【年会費】正会員（看護師または当会役員）7,000円、一般会員（看護職以外）5,000円、学生会員（大学院生を除く）3,000円、賛助会員30,000円より

NEWS LETTER-The Japanese Holistic Nursing Association, Vol.16, 2017.

日本ホリスティックナーシング研究会ニュースレター第16号

発行：日本ホリスティックナーシング研究会事務局 2017年12月発行

本部：日本赤十字看護大学守田研究室内 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3

TEL：03-3409-0722 MAIL：[info@jhna.jp](mailto:info@jhna.jp) URL：<http://www.jhna.jp>

ニュースレターに関するご意見ご感想は、本江 [a.hongo@soei.ac.jp](mailto:a.hongo@soei.ac.jp) 相原 [aihara@hcpro.jp](mailto:aihara@hcpro.jp) までお寄せください。